

市民と市長との対話集会会議録【要旨】

令和 6 年 5 月 9 日 ひと・まちテラス

開会

市長あいさつ

夕刻のお忙しい時間にお集まりいただき、ありがとうございます。

限られた 1 時間の中でテーマを決めて、それをどうしたら中津川市がよりよくなっていくのかというようなことを話していきたい。できるだけ 1 人一言ずつは話していただきたい。よろしくお願いします。

参加者

それでは、第 1 のテーマ「中津川市は自殺率がなぜ高いのか。」について、よろしくお願いします。

市からの説明(略)

参加者

広報なかつがわの記事を見て、ゲートキーパーに興味を持った。(自殺予防について)支援する体制が必要じゃないかと思っていた。精神的な面だけではなく、体制や具体的に動ける提案とかはないか。

中津川市

各地域の健康推進員の方々に対してゲートキーパーの研修を行っている。ただ、自分がゲートキーパーとして(自殺しそうな方に)気付けなかったらどうしようと心配されることもあるが、ゲートキーパーになったからといって、責任が生じるわけではないということをご理解いただきたい。研修も知識を地域に広めてもらうという意味でやっている。

参加者

ゲートキーパーという言葉を知らなかった。関わっている人たちの中には、お子さんが亡くなったという方も。そんな話を聞くと、本当にどうしたらいいのかと思うが、やはり気付くことは難しい。自殺は突然のことが多いような気がする。市全体が自殺予防のためだけではなく、心を許しあえるような、そういう雰囲気にならない限り簡単じゃないだろうと思う。

参加者

いのちの電話のような、市民の声を聞く方法を市役所内で作ろうという動きはあるか。

市長

自殺の話になると必ず「今、お悩みの方はこちらに電話をかけてください。」といういのちの電話ダイヤルの周知があると思う。現状では 24 時間対応ができないので、市役所にそういう番号はない。中津川市の人だから中津川市の人が電話を受けるのが良いということでもないと思う。自分の悩みを聞いてくれる窓口があれば、愛知県でも東京都でも。つながればどこでもいいと思うので、そういったところを活用していきたい。

参加者

県や国に相談の電話をかけたら、それが市の行政にフィードバックされるルートはあるか。

市長

中津川市民の方で、市の何かでお悩みという内容であれば、きっと市の担当の方に、相談窓口からフィードバックはあると思う。

参加者

プライベートなことで行き詰まってしまった人のために、ゲートキーパーを育成しようというのは、不定期的な研修会のみか。

市長

声掛けを心がけるということを皆さんに共有するのが、ゲートキーパーの研修だと思う。ゲートキーパーというのは資格ではなく、研修を受けたから認定証がもらえるというものでもない。普段からいろんな人の話を聞くような人は研修を受けなくても、不安そうな人がいたら声をかけたりしていただければと思う。相手が救われることもあると思うので、そういう積み重ねだと思う。

参加者

市の相談窓口はお知らせされているが敷居が高いという人も。受け入れる体制ができると、相談しやすくなる。

市長

悩んでいるが、誰にそれを打ち明けていいかわからないという方もいる。そういった方に声をかけ、相談窓口を紹介してあげると一歩踏み出せると思う。その声かけをしていくのがゲートキーパーだと思う。

参加者

声かけをしていくのは、ある程度対応するための知識がないとなかなか勇気も出ないし、難しいと思うので学ぶ場がもう少しあるといい。

参加者

自殺しようと思うまでの過程で、誰かが気が付くことが一番大事なのかなと思う。悩みを打ち明けてと言っても、打ち明けてくれるわけではない。そこに気づくことができる、地域ごとのつながりを強くしていく事に力を入れないといけない。カウンセリングで今まで相談に乗った方が、死にたいって人もいたが、腹を割って話すとだんだん変わっていく。だから、ここでそういう相談ができるとか、情報を流してあげるのがまず大事かと思う。

市長

気づいてあげることだが、口で言うのは簡単でも実際は難しい。普段共に生活している方が、違いに気づいてあげることが大事。本当に自分を追い詰めるのは、時間的にはそんなに長くないと言われる。それを回避してあげられる、そのタイミングだと思う。繰り返しになるが、いかに早く気づいてあげられるかというところ。

参加者

有名な心理学者・精神科医が関わったことにより自殺率が激減したという。なぜかという、必ずどんなことがあっても夢と希望を捨てないでと働きかけをしたから。シグナルを見つけるのは家族でも難しいかもしれないので、学ぶ機会があれば、たとえ1年に1回でも学んでいけると良いのではないかと。市も、具体的に学びの機会や方法を、検討していただけたらと思います。

市長

おそらく、もっと早く声をかけることで自殺を防げた人もたくさんいると思う。救われた方もいるということは間違いない。何かちょっとおかしいなと思ったら声をかけてあげる。すぐに相談してもらえるかどうかかわからないが、気にかけてあげるとか、話を聞いてあげられる環境を作ることが大事だと思います。

参加者

わずかな時間でも、テーマに関心を持っていただけてよかった。声をかけやすい市全体の空気感や地域のつながりみたいなものも、大切なこと。

それでは、第2のテーマ、「不登校について」というテーマで、お願いいたします。

市からの説明(略)

参加者

長年塾をやっており、その中で不登校の子から相談を受けたりもしている。学校側は手厚くサポートしようとしているが、不登校の原因が全然見えてこない。原因を探らずにというのは少し不足ではないか。去年フリースクールを立ち上げたが、学校に行けなかった子が生き生きと過ごしている。学校には辛うじて行っているが、本当に学校が楽しくないという子もすごく多い。子どもらしい生き生きとしたところがない。やはり私たちは、何がそういう状態を作っているのかを考えなければいけないのでは。

市長

(不登校の原因は)人間関係や精神的なことなど、本当に多岐に渡るので、学校の方で生徒さん達と皆さんとお話する中で突き止めながら話していると思う。最近思うのは、通信制の学校にいく子が非常に多い。中津川市だけでなく全国的に多い。学校に通わなくても学べるという環境が、今増えてきているのも原因の1つではないか。

参加者

子どもは家庭の中で一番弱い立場。家族の矛盾とか問題も、子どもを通して出てくるっていう感じがある。子どもに現れる原因というのは非常に複雑、色々が全て子どもに出るのかなと感じる。

市長

私は今55歳ですが、私が学生の頃は親に行かされた。今は行きたくないのなら行かなくていいという社会風

習になっていると私は理解している。それがいいか悪いかは別だが、そういったことも要因の1つでは。

参加者

まず、学校がものすごく窮屈になった。コロナ禍で、子どもたちの育ちが阻害され、制限された。ずっとマスクをつけなさい、人と関わるな。この数年はさらに窮屈になったと捉えている。

フリースクールでは子どもたちのやりたいを最大限尊重して、勉強は特に教えていない。批判はあるが、何より子どもたちが生き生きと自分を出せる場を保障することが、その次につながると思う。公立の学校でも、もっと自由にできるのではないかな。さっき市長が言われたように、行かなくていいという風潮があるから増えているのは確かだと思う。でも、やっぱり子どもたちは学校に行きたい。行きたくなるような学校を作っていくのが、大人の役目じゃないかと思っている。

参加者

子ども2人が不登校を経験した。通信制の高校に2人とも進学した。私も学校は行くべきだとずっと思っていたので、最初は引きずって行った。そのうち子どもの心が壊れて、これ以上やったら、この子は死んでしまうと思うぐらい、心身に影響が出た。

次男は特にいじめが原因で、いまだに苦しんでいる。スクールカウンセラーさんが子どもに話を聞いてくれたら、長いこといじめられていたのがわかった。その時には、学校の先生達もアンケートをしたり、いろいろ動いてくださったが、子どもの心はもう壊れていて、謝罪されたところで全然回復できなかった。中学生になってもいじめた子達と同じ学校で、本人からしたら何も変わってないところに行って頑張らなきゃいけない。先生たちが見かねて、本当に学校に来ることが得策かどうかを話し合い、3年間ほぼ行かなかった。学ぶ機会がなくなり、体も動かしにくい日にも当たらない悪循環で、だんだん鬱傾向になっていく。

適応指導教室に連れて行くなどしたが、本人は自分がもう必要とされていないという思いがなかなか取れなかった。適応指導教室に行っても通知表は斜線か1。否定されているように感じて、中2のときはもう絶望して、自殺してしまうのではないかと不安感の中で毎日過ごした。

どの子も本当は学校に行きたい。不登校の子のお母さんの会でいろんな方の話を聞くが、最初から行きたくないなんて子はいない。でも、何らかの原因があって行けないので、自分にできる形で頑張ったり楽しんだり経験するが、それは何にもならないという今の教育の現状がある。

通知表の評価が斜線なのは存在が消されているみたいで悲しいので、授業に出てなくて評価できないなら1でもいいが、子どもが頑張ったことを何とか言葉にしてほしいとお願いしたら、先生がいっぱい書き込んでくださって、それを通知表として受け取っていた。でも、学校外で勉強を頑張っても、通知表の評価は全部1という現状がある。教育がもう少し柔軟になって、子どもたちが社会に出ていくためにはどうしたらいいのかという先を見たシステムが、今の学校のルールだけではたぶん足りてないと思うので、何とかしてもらいたいと常々思っている。

参加者

上の子は6年生の時から不登校だった。下の子はコロナから学校に行けていない。上の子の行かなくなった理由は、先生と合わなかったから。学校という場にも合わなかった。その頃は周りに不登校の子がいなかったが、下の子の周りには、不登校の子がたくさんいる。そういう子がいるから話を聞いてあげてくれないかとかいう話

がたくさんあり、当事者の会を立ち上げた。

上の子は鬱になって、本当に死のうと思ったときもあったが、パソコン、ゲームがすごく得意で、17歳で1人で県外へ出て、ゲームライターをして自分で生活している。鬱になったことがあるので、何かあったときにすぐ行けない距離にいる不安はあるが、得意なことを生かして、今、生き生きと生活している。

下の子は、高校に向けてちょっと未来を見て気持ちも落ち着いて、前向きになってきているところなんですけど、週2日、夕方に学校へプリントをもらいに行っていたのが、先生たちの働き方改革で1日にしてくださいと言われて、学校に来るなど言われているように感じた。週に2回、数分行くだけでもモチベーションを上げていたところで気持ちが落ちてしまった。今は週1で割り切っているし、働き方改革ももちろん必要。うちだけOKにはできない。不登校の子も増えているから先生たちの負担が大きいことはわかっているが、何か良い策はないかと思う。長い目で見て、子どもの居場所を作っていければと思っている。その子の得意なことを伸ばして、何か1つ得意なことがあれば、これから先、生きていくときに何か力になることになるのではないかな。

参加者

長男が今30歳。発達障害を抱えていて、ADHDと診断されている。小学校のときは、人数が少なく、先生たちも手厚くサポートしてくれて楽しく行けた。中学校に入って周りの子が成長してくると、うちの子をからかうようになったが、運動神経がよかったので部活は行きたくて通えていた。でも中学校1年生の体育祭を最後に行けなくなった。学校は行くものだと思っていた。この子は弱いと思って、しっかりして欲しい、発達障害と折り合いをつけながら生きていかなきゃいけないと思い、かなり厳しくした。それでもやっぱり動かず、ありとあらゆるやっつけなことを投げかけた。今は障がいや統合失調症もあって入院したりはするが、市外で障がい者のバレーボールチームに所属しながら、作業所でホテルの清掃とかベッドメイキングとかしながら、自分で生計を立てて暮らしている。

学校は、働き方改革とか校長の方針でいろいろ変わってくる。子育てサロンを皮切りに、安定して集まれる場所が欲しいというお母さんたちをサポートしてあげたい。親が楽にならないと子どもは決して楽にならない。そういう場所を作ろうと団体を立ち上げて今もう5年目になった。

うちの子はたまたま居場所を見つけられたが、グレーゾーンの若者は中津川市にもたくさんいる。中にはもちろん自殺者もいる。そういう子たちがいつでも行ける居場所があるといい。1人の力は小さいので、まとまってみんなでつながりを持って、広くつながれないかと思う。

参加者

長い間、教育相談担当としてカウンセリングをやってきて、学校は不登校が出ると学校内で処理しようとして、なかなか外とつながろうとしないと感じる。相談にみえたお母さんに、知り合いから相談できると聞いてきた、という方がみえた。親の会をもっと広く学校にも宣伝していただきたいと思って校長会長のもとに行かせてもらって話をしたが変化がない。不登校の子の親さん方はすごく苦しんでいるので、学校から親の会などを紹介してもらえると本当に救われると思う。もっと中津川市のみんなで支えていく体制を、ぜひ学校が積極的に、前向きに取り組んでもらいたい。

市長

学校側も紹介をしていると思うが、なかなか伝わっていないかもしれない。紹介するというのが学校側に見

放されたような感じ方をする方もいるのではないかという危惧もあるので、そう思われないような対応をしていかなければいけない。子どもが通える場所、親さんの相談できる場所であるということも含めて。親さんの会はいくつかあると思うが、連携はあるのですか。

参加者

まだない。親の会だけじゃなくて、学校も教育委員会もすべて、中津川市の大きな輪の中で、つながってけるとすごく救われるなと思う。

市長

どういう形になるかわからないが、いくつかの団体が集まれば、悩み、解決策、実体験が活かされるということもあると思うので、連携がとれるような仕組みができないかと思う。また相談しながら進められると良い。1 人でも子どもたちが救われて、学校にまた通えるきっかけになればいい。先ほどの自殺のことと共通していると思うのは、早く気づいてあげること。不登校のことでも、難しいのは十分わかるが、今悩んでいる方にアドバイスしてあげられるような場もできるといいなと思う。

市長

対話集会はずっと続けていくので、またこんなテーマでというのがあれば、やっていきたいし、そういう声をお聞きしたいと思っている。

すべてが解決策につながるかどうかかわからないが、対話する中で、取り組みができることがあれば、それに前向きに取り組んでいきたい。主役の市民の皆さんの声を聞くということが大事だと思っているので、引き続きよろしくお願いします。ありがとうございました。